はじめられました。

明治十四年から、つぎつぎと、もと武士の十家族が、滑津原に移住し、それぞれ、国から五ヘクタールの土地と補助金を借りて開たくを始めました。　また、農業に不なれな武士に、農事作業を指導するように命じられたのは、前から村に住んでいた水野谷宗三郎でした。

そのころ、滑津原一帯は、平地で、森林、原野が広がっていました。これを田や畑にする仕事に移住者たちはあせを流しました。じゃがいも、さつまいも、あわ、きびなどの食べものや、くわ、杉、けやき、ならなどの苗を育てて生活をしていました。

移民の家（大正11年）